

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月3日(金)

会場:川西コミュニティセンター

参加者数:18人

◎テーマ①:人口減少社会におけるまちづくり

【趣旨説明(川西自治連合会)】

川西地区の人口は、20年前には約1,300人いたが、今は900人を下回っている。10年後には約680人になると予測している。高齢化率は53%に達している。川西に住んでいる理由についてアンケートをとると、先祖代々の土地や建物があるからという理由が多かった。今はその相続人の流出が続き、地域機能の維持が深刻化している。人口減少の中でも、にぎやかな過疎をめざし、行政と情報交換や連携を行いながら、発展させていきたい。

参加者の発言	市の発言	備考
相続人が地元にはいない家が増えているため、次の世代はどうなっていくのかと思う。自分の息子夫婦はパソコンがあればできる仕事であり、東京から帰ってきて一緒に住んでおり、心強く感じている。働く場所の確保などを強化しなければ、若い人が地元に残らないのではないかと。産業振興をして働く場所をつくれれば、希望が持てる地域になるのではないかと。	雇用の確保については、どの地域も課題である。企業誘致については、三次工業団地はいろいろな会社が集積しており、売る土地がない状況である。雇用を継続的に確保するためにも地元企業を守ることも重要である。新たな企業の誘致としては、長年利用のなかつた三良坂産業団地に、福島県のシンセイという企業が中国地方の物流拠点として進出してきた。今後も、規模拡大をされる予定である。また、三良坂の灰塚地域には、AI企業を誘致した。持続可能な農業ができるようになれば、働く場所とともに農地維持にもつながる。第一次産業や企業誘致、起業、今ある企業を守りながら、雇用の確保や創出につなげるように、引き続き取り組んでいく。	

開催日:10月3日(金)

会場:川西コミュニティセンター

参加者数:18人

◎テーマ②: 10年先の未来から学ぶ暮らしの豊かさ

【趣旨説明(川西自治連合会)】

人口は確実に減っていくが、今以上に豊かに暮らしていきたいという気持ちは誰もが持っている。縮小しながらも豊かで充実させていく地域をめざしたいと思い、「縮充」をキーワードにいろいろ考えている。若い人の働く場や農業の維持・充実、健康維持や地域環境など、これから私たちがどういう形で歩んでいくことが豊かさにつながるのだろうか。皆さんのいろいろな思いを聞き、ビジョンの中に反映していきたい。

参加者の発言	市の発言	備考
米の価格について、今年は昨年に比べ希望が持てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、特に米作りを取り巻く環境が少しずつ改善してきており、川西地区では少しずつ収益構造になってきているのか、農業法人や農家の皆さんが希望を持てる状況になってきているのか、地域の状況を伺いたい。 ・農林水産省には米の所得補償や米の価格保障などを、国としてしっかり関与してもらいたい。消費者や事業者の皆さんと直接取引しているケースもある。 	
農事組合法人を経営してきたが、この度の米騒動を経て、日本人の主食である米の価格が高騰すると慌ててしまう。生産面においても米は中核であり、JAの取引額も米が一番高い。改めて米を見直す機会になった。今後も、多面的機能の促進事業や中山間地域等直接支払制度の事業などを守っていただき、安定して収益が出るようにしてほしい。	外国人が日本にきて、米を食べる人が増えている。外国人の消費量が増加している一方で、日本人の消費量は減っている。食料自給率を上げていくことは、国土を守ることもつながる。日本食は世界で注目されており、生産物の価値が高まっている。今後の産業の柱として成長していくと思う。こういった状況が続くように、地方の実態や状況をしっかりと国に伝えていく。	

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日：10月3日(金)

会場：川西コミュニティセンター

参加者数：18人

◎テーマ③：学校の再編と地域の再編

【趣旨説明(川西自治連合会)】

川西小学校の児童数は25名。将来どうなるかわからないが、地域と子どもとのつながりを大切にしていきたい。こどもまんなかアフタースクールとして、夏休みに子どもの講座や学習の場としてこのコミュニティセンターを提供するなど、子どもとのつながりを作るように取り組んでいる。学校と子どもの将来をどう考え、地域と一緒に作っていくかという点が重要であると思う。そして、地域の中の組織も、スリム化や再編を意識しないといけないと、今年は強く感じ始めている。

参加者の発言	市の発言	備考
川西小学校が統合するのなら、どこするのか。廃校になると、川西小学校はどのように使われるのか。上田小学校はほしはら山の学校として活用されている。今からどのようにすればいいのか、みんなで考えて行動していく必要があるのではないか。高校を卒業して大学や就職で都会に出たいと考えることは理解できるが、三次に帰ってきたいと思う場所をつくりたい。自分は三次に育ててもらったので、恩返しをしたいと考えている。	現在の計画では、川西小学校は計画期間内では再配置対象校ではないため、再配置先は決まっていない。小学校跡地は、再配置が決まった後に、地域の皆さんと利活用等について考えていきたい。	
・亡くなった友人が40年近くボランティアで子どもたちを見守ってきた。感謝状を出してほしいと要望したが、受け入れてもらえなかった。何か方法を考えてほしい。 ・4年後にある善行表彰に推薦することを覚えてほしい。長年ボランティアで子どもたちと関わってきた思いや、つながりを大切にしてほしい。	・表彰について、市では5年ごとに市制施行記念行事で善行表彰を行っている。お亡くなりになった方も対象とし、感謝状を贈呈する制度を設けている。審査会の審査を経て表彰をしているので、推薦をお願いしたい。 ・三次市内ではいろいろな分野で貢献されている方がいる。行政にも共有してほしい。	
不登校の生徒について、25年前に塩町中学校に3名の不登校生徒がいたが、すべて川西の子どもであった。地元の子どもが不登校のままではいけないと思い、その生徒の保護者とずっと話をしてきた。将来のある子どもを不登校で終わらせないようにしてほしい。	・不登校の子どもたちは増加傾向である。家から出られない子や教育支援ルームに通う子など、いろいろな児童生徒がいる。「不登校政策ラボ」として、認定特定非営利活動法人カタリバと公益財団法人日本財団と一緒に、総合的な不登校対策を考えており、児童生徒がどこかと必ずつながっている環境づくりを構築していきたい。 ・コロナ以降、不登校が増えている。不登校になる前のケアも非常に重要であり、認定特定非営利活動法人カタリバも加わり、いろいろな取組を行っている。	
人口が減少している。子どもがいなくて地域は維持できない。市役所に結婚相談に関する部署を作してほしい。	・川西地区では、転入人口は多いが、死亡により人口が減っている。市内各地域では、婚活事業が行われており、市から事業に補助金を出している。県では「こいのわ」という情報サイトがあり、登録すると県内のいろいろな婚活事業の情報が提供される。三次市内の方も100名以上の方が登録をされている。若い方は、情報を収集しながらイベントに参加されている。相談があれば、活動事例や補助金等の紹介をしている。 ・市内の婚活イベントに参加するメリットと、広島市なども含めた広範囲の婚活イベントに参加するメリットがあり、いろいろな有効性がある。今後も継続していく必要がある。	
サルビアを地域で育てているが、置く場所の国道に草がかなり生え、伸びている。県や市に除去してほしい。	草刈りについて、国道の管理をしている機関と、気持ちよく駅伝が実施されるように引き続き連携していく。	